



年 組 名前

道新でワークシート

「鮭の聖地」日本遺産に

文化庁、根室管内4市町を認定

文化庁は19日、地域にある有形・無形の文化財を組み合わせて発信し、観光振興などにつなげる「日本遺産」に、根室管内標津町など4市町が申請した「『鮭の聖地』の物語〜根室海峡一万年の道程〜」など21件を新たに認定した。道内からの認定は5件目。日本遺産の認定数は今回で目標としていた100件を超え、今後は新規認定を取りやめる。

(鈴木誠)

道内5件目新規は終了

小樽市が明治時代の建造物など商都の歴史と文化財の保存活動を組み合わせた「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」、札幌市など道内30市町が食の産業発展をテーマにした「食の軌跡が輝く北の大地」を初

めて申請したが、いずれも認定されなかった。

日本遺産は、地域の遺跡や食文化、伝統芸能などの文化財を一つのテーマに沿って組み合わせ、一括して認定する制度。文化財の価値よりも地域の歴史や風習を踏まえた物語性を重視し、地域の文化をわかりや

すく紹介することで観光振興につなげる目的がある。本年度は全国から69件の申請があった。テーマの斬新さや分かりやすさなどを基に、文化財や観光などの専門家10人が審査した。認定された自治体には、ガイド養成や情報発信、施設整備などに対して、国から3年間の財政支援を受けられる。

標津町と根室市、別海町、羅臼町が申請した「『鮭の聖地』の物語」は、冬の風物詩になっているサケを干す風景や、国史跡で縄文時代以降の住居跡が残る「標津遺跡群伊茶仁カリカリウス遺跡」など31件の文化財で構成。サケをテーマに据

え、古代から続く人の関わりや関連産業の歴史、地域の食文化などを組み合わせ

申請は今回が3回目で、審査委員からは、サケに焦点を当てた視点の独自性やサケを通じたアイヌ文化やロシアとの関わりなどをテーマに盛り込んだことが評価された。昨年度の申請と比べ、遺跡から発掘された遺物などで学術的な裏付けを強化したことも認定につながった。

制度が始まった2015年度以降の認定数は104件となり、今回で新規の認定を終了。一方、日本遺産は制度自体の認知度が低いことや、自治体のガイド養成の取り組み方などに差があることが課題で、文化庁は今後、認定された遺産の魅力向上に軸足を移す。

道内ではこれまで、檜山管内江差町の「ニシンの繁栄が息づく町」、函館市など道内外48市町の「北前船寄港地・船主集落」、上川、十勝両管内12市町の「カムイと共に生きる上川アイヌ」、赤平市や小樽市、室蘭市など12市町の「北の産業革命『炭鉄港』」が認定されている。



日本遺産に認定された「『鮭の聖地』の物語」に含まれるサケを干す風景―別海町

道内の日本遺産と所在自治体

登録年度	登録名	所在自治体
2017	江差の五月は江戸にもない ―ニシンの繁栄が息づく町―	檜山管内江差町
	荒波を越えた男たちの 夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～	函館市、小樽市、石狩市、 渡島管内松前町と15府 県44市町
18	カムイと共に生きる 上川アイヌ ～大雪山のふところに 伝承される神々の世界～	旭川市、富良野市、上川 管内上川町、愛別町、上 富良野町、当麻町、東川 町、比布町、十勝管内上 土幌町、鹿追町、土幌町、 新得町
19	本邦国策を北海道に観よ! ～北の産業革命「炭鉄港」～	赤平市、小樽市、室蘭市、 夕張市、岩見沢市、美唄 市、芦別市、三笠市、空 管内栗山町、月形町、沼 田町、胆振管内安平町
20	「鮭の聖地」の物語 ～根室海峡一万年の道程～	根室市、根室管内標津 町、別海町、羅臼町



年 組 名前

道新で ワークシート

①「日本遺産」とは、どのようなものか答えなさい。

②根室管内4市町のテーマ「鮭の聖地」とは、どのような構成か答えなさい。